

「悪石島小・中学校の悪石島のボゼ伝承活動の取組」

1 学校名

十島村立悪石島小・中学校

2 学年・人数

小学生7名（3年4名，5年2名，6年1名）

中学生2名（2年1名，3年1名） 計9名

3 日時・場所

(1) 日時

平成30年8月17日～8月26日（旧暦7月7日～16日）

(2) 場所

悪石島公民館・テラ（墓地）等

- ・旧暦7月7日：七夕 夜の盆踊り始め
- ・旧暦7月13日：花たて打ち
- ・旧暦7月14日：水祭り 盆踊り（テラ→公民館）
- ・旧暦7月15日：水祭り 盆踊り（公民館→テラ）
- ・旧暦7月16日：ボゼ祭り

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

悪石島のボゼ（あくせきじまのぼぜ）

（国指定重要無形民俗文化財 平成29年3月3日）

（ユネスコ無形文化遺産登録 平成30年11月29日）

(2) 内容

水祭り，精霊迎え，精霊送り等の一連の盆行事

(3) 特徴

盆踊りで行われる踊りは，ところ（場所）・ときを定めて決まった種類の踊りが踊られる。代々口伝のみで伝えられて，受け継がれてきている。

盆踊りは男性(小学生の女子も含む)のみで踊り，鉦に合わせて物静かに踊る。

旧暦7月16日には，テラに集まり盆踊りを行い，その後公民館に移動して再び盆踊りが行われる。ここで，島民による口上が述べられ，呼び出しと太鼓の音に導かれ3体のボゼが出現する。ボゼが帰った後，最後の踊り（ニワモドシ）が行われる。

(4) ボゼについて

ボゼは盆の終わりに現れ盆行事の幕を引くことで，仏を拝む盆行事に熱中した人々を，太陽の輝く日常の力強い新たな生の世界へ引き戻し，転換させ甦らせる役目をもつとされる。ボゼは，体中や持っているマラ棒の先端についた赤土を人々に擦り付ける。ボゼには，盆時期に先祖の霊とともに現世にやってくる悪霊を追い払い，幸をもたらす力がある。

5 保存会や地域との連携の具体

盆踊りは、踊るところ、ときが定めら、先祖の霊や神・仏に奉納するものとされているので、お盆以外に踊られることはなく、伝承も口伝のみとなっている。そのため初めて参加する者は、実際の踊りの中に入り、島民が踊っている姿を参考に、見よう見まねで覚えるしかなかった。しかし、現在「盆踊り保存会」が踊りを伝え、学校も協力・連携している。

ボゼの登場する最終日はボゼ特別便により、多くの観光客や取材陣が訪れ、大きな賑わいをみせる。教職員も、島民の一員として積極的に参加し、真剣に取り組んでいる。この時期は夏季休業中であることが多いが、よほどのことがない限り、全職員が帰島し参加をしている。踊りは男性のみであるが、女性は各家庭での御盆行事や食事の準備等で大忙しの中、踊りの合いの手などで参加し、場を盛り上げてくれる。まさに島が一丸となり取組む姿から、郷土の伝統文化への誇りと熱い思いを知ることができる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝統を引き継いでいこうという思いから、盆踊り保存会が発足している。その取組として、盆踊り期間中に、子どもたちや教職員、Iターン者への講習会が行われている。今までは、見よう見まねで覚えるしかなかった踊りだが、講習会で、唄われる歌詞の意味や踊りの一挙手一投足について細やかな指導がなされている。次の世代へと伝統を引き継ぎ、守っていくうえで、大変有意義であると考えている。子どもたちも楽しく参加し、島の伝統を引き継ぐことの大切さを実感している。

7 取組の様子



悪石島のボゼ



悪石島のボゼ



悪石島の盆踊り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

講習会で、盆踊りの動きについて詳しく知ることができた。しっかりと伝統を受け継いでいきたい。また、盆踊りの際には、たくさんの人から声もかけられてうれしかった。

【保存会】

昔から当たり前にしてきたことが、世界的に評価されていることがうれしい。その伝統を、次の世代にしっかりと引き継ぐことが重要であると考えている。

悪石島の伝統が途絶えないように、若い世代への橋渡し役として、島民一丸となって頑張りたい。